

2024年3月期 第1四半期 連結決算概要

キオクシアホールディングス株式会社

2023年8月9日

注意事項

将来に関する記述は、当社が現時点で把握可能な情報から判断した想定および所信に基づくものであり、多様なリスクや不確実性（経済動向、市場需要、半導体業界における激しい競争等がありますが、これらに限られません。）により、実際の結果とは異なる可能性があるのでご承知おきください。また、当社は本資料上の将来予想に関する記述について更新する義務を負うものではありません。

本資料に記載されるメモリ市場の見通し等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、当社がその真実性、正確性、合理性及び網羅性について保証するものではありません。

なお、本資料は、当社の2024年3月期第1四半期連結決算概要の提供のために作成されたものであり、国内外を問わず、当社の発行する株式その他の有価証券への勧誘を構成するものではありません。

本文に掲載の製品名やサービス名は、それぞれ各社が登録商標または商標として使用している場合があります。

業績概要¹

[億円]	23年3月期 4Q	24年3月期 1Q	対前四半期
	売上収益	2,452	
営業利益	▲1,714	▲1,308	+406
マージン	▲70%	▲52%	+18pt
当期純利益	▲1,309	▲1,031	+278
マージン	▲53%	▲41%	+12pt

補足情報

減価償却費及び償却費 ²	1,069	943	▲126
PPA影響額 ^{3, 4}	▲56	▲40	+16
法人所得税費用	▲539	▲435	+104

1. 連結・IFRSベース
2. 営業利益に減価償却費及び償却費を加算したものが、当社グループのキャッシュベースの収益性を示す指標であるEBITDAとなります。当第1四半期におけるEBITDAは、営業利益▲1,308億円に減価償却費及び償却費943億円を加算した▲365億円となりました。
3. 過去の企業結合に伴い発生したPPAによる営業利益への影響額です。

4. 営業利益からPPA影響額を除外したものが、当社グループの恒常的な経営成績を示すNon-GAAP営業利益となります。当第1四半期におけるNon-GAAP営業利益は、営業利益▲1,308億円からPPA影響額▲40億円を除外した▲1,268億円となりました。同様に、Non-GAAP当期純利益は、当期純利益▲1,031億円からPPA影響額▲40億円を除外した金額から税金調整額を差し引いて▲1,003億円となりました。

ハイライト (1/2)

足元の実績及び動向

	23年3月期 4Q	24年3月期 1Q
出荷量 ¹ (QoQ)	10%台前半の 増加	10%台半ばの 増加
販売単価 ¹ (¥, QoQ)	20%台後半の 下落	1桁%台半ばの 下落

1. 記憶容量ベース

- 第1四半期連結会計期間は、PC及びスマートフォン向け顧客の在庫水準改善によって出荷が増加し、前四半期比で小幅に増収
- 販売単価の下落幅は前四半期比で大幅に緩和
- 棚卸資産評価減の影響が軽微であったことに加え、IFRSに基づく固定資産税一括計上の影響がなくなったことにより、営業損失は前四半期比で縮小

製品開発・技術開発

- UFS 4.0対応組み込み式フラッシュメモリ新製品のサンプル出荷
- 第6世代BiCS FLASH™搭載の小型・大容量クライアントSSD「KIOXIA BG6シリーズ」を発表
- データセンターSSD新製品「KIOXIA CD8Pシリーズ」の評価用サンプルの出荷
- 横浜市内の2つの新たな研究・技術開発施設が稼働開始

ハイライト (2/2)

市場動向及び見通し

- フラッシュメモリメーカー各社による生産調整が拡大しており、需給バランスは徐々に改善が進んでいる。顧客の在庫消化進展とPC及びスマートフォンのメモリ搭載量増加傾向などを背景に、フラッシュメモリ需要は徐々に回復すると予想されており、販売単価の下落も需給バランスが改善するにつれて落ち着きつつある
- データセンター・エンタープライズSSDの需要は、顧客の在庫調整に加えて、企業のIT投資に対する慎重な姿勢が継続しており、今年中は低迷が続く見込み
- 足元では厳しい状況が続くが、フラッシュメモリ市場の中長期的な成長トレンドについての市場の見方に大きな変化はみられていない
- 市況回復の遅れを踏まえ、引き続き需要動向に合わせた生産調整と販管費抑制に注力する一方、次世代製品開発や製造コスト低減等の競争力維持のための取り組みを継続する

KIOXIA